2025 年生物学野外実習実施報告

今年も西表島において 6 月 25 日～30 日（5 泊 6 日）の日程で生物学野外実習を実施しました。今年の参加学生は 25 名、参加教員は生物系から 4 名と熱帯生物圏研究センターから 3 名の計 7 名でした。野外実習では、事前講義を大学で行い、西表島では課題の調査とその結果に基づくプレゼンテーションを行っています。今回は 5 つの班に分かれてそれぞれの課題についてプレゼンテーションをおこないました。

1 日目はお昼に西表研究施設に集合し、歩いて調査地に向かいます。動植物を観察しながら 45 分ほどで調査地に着くと、さっそく課題の 1 つである昆虫トラップを 2 つの環境に設置しました。また、事前に設置していた自動撮影カメラのデータの回収も行いました。3 時間ほどの調査を終えて帰ってきてからは、撮影された動画を確認し、どのような動物が記録されていたのかをまとめました。


西表島に船で到着


昆虫トラップの設置


自動撮影カメラのデータ回収


撮影された動画のチェック

2 日目は、朝 8 時前に調査に出発です。午前中は植物の訪花昆虫の行動の観察を行いました。その後、前日に設置した昆虫トラップを回収しながら研究施設にもどり、花の形態を詳細に観察しました。昼休憩をはさみ、次は昆虫トラップで採集された昆虫の同定です。2 つの環境ごとに採集された昆虫を分類していきます。この日も日差しがきつく、慣れないフィールドワークで疲れた学生も出てきました。


訪花動物の観察


ノボタンに訪花するハチ


昆虫トラップの回収


採集した昆虫


道中で発見したイリオモテヤマネコの糞


ヤエヤマトガリナナフシ

3 日目も 8 時前から始まります。まずは、カタツムリの採集です。晴れ続きでカタツムリの採集には不向きなコンディションですが必至に対象種を探します。10 時には研究施設に戻り、今度は採集したカタツムリの殻の計測をしました。頑張った班ほど計測に時間もかかります。午後は干潟でシオマネキの観察です。この日も晴れていたので暑かったですが、何とかデータをとりました。干潟では、マングローブ植物の解説や、調査用に設置した刺網の回収、投網も行いました。夜は、ナイトウォークに出かけます。乾燥していたこともあり、観察できた生物は限られましたが、サキシマハブやオオハナサキガエルなども見ることができました。


カタツムリの採集


採集したカタツムリの計測


シオマネキの観察


課題の合間で投網


ナイトウォーク（夜行性動物の観察）


ナイトウォークで見たオオハナサキガエル

4 日目は浦内川の上流まで行く生物観察の日です。9 時前に浦内川遊覧船乗り場を船で出発し、30 分ほどで川の中ほどの船着き場の軍艦岩に到着しました。下船後は、登山道に出てくる植物や動物の観察をしながら、カンピレーの滝に向かいました。サキシマカナヘビやヤエヤマノボタンなど八重山諸島の固有種も観察できました。通常であれば 1 時間もかからない道のりですが、観察をしながらなので 2 時間以上かけて到着しました。1 時間半ほどの休憩後、下山します。
これで終わりであればよいですが、翌日のプレゼンテーションに向けてデータ整理が終わっていない班は夜中まで準備が続きます。


森林性植物の解説


陸棲貝類の解説


道中に出現したサキシマカナヘビ


ヤエヤマノボタン


昼食 1


昼食 2

5 日目は朝からプレゼンテーションの準備です。前日に終わらなかった班は朝 6 時から準備にとりかかっていました。（前日は深夜 2 時までやっていたそうです！）
発表は 1 班 15 分程度で、その後に質疑応答の時間を設けました。学生からもたくさんの質問がでて、担当班もなんとか回答していました。教員からの質問の中には答えるのが難しいものも・・・。今後卒業研究をやっていく上で参考になるでしょう。


プレゼンテーションの準備


プレゼンテーション風景 1


プレゼンテーション風景 2


質疑応答

最終日は部屋の片づけをして解散です。今年も無事に大きなケガや病気なく実習を終えることができました。フィールドワークやデータ整理の方法の一端、チーム内での議論の大切さなど様々なことが学べたと思います。また来年！



帰りの船に乗船


また大学で～